



独立行政法人国立病院機構

東京医療センターだより

National Hospital Organization Tokyo Medical Center 第99号

発行日 令和6年6月
発行人 小林 佳郎
〒152-8902
東京都目黒区東が丘
2-5-1
電話 03-3411-0111
<https://tokyo-mc.hosp.go.jp>

基本理念 東京医療センターは患者の皆様とともに健康を考える医療を実践します。



薬剤部 吉川 至

院長就任挨拶

病院長 小林 佳郎



本年4月1日、病院長に就任しました。何卒よろしくお願い申し上げます。当院は、東京都区西南部地域に位置する640床を有する高度・急性期病院として、地域の皆様に幅広い分野の医療を提供しております。特に、救急医療とがん医療におい

ては、最新の設備と卓越した技術を備えたスタッフが、質の高い医療を提供できるよう努めております。これまで、地域の医療機関からのご紹介や救急搬送患者に対する2次・3次救急の受け入れに力を入れてまいりましたが、今後は救急科医師による2次救急応需体制を強化し、地域の医療機関や関連施設、救急隊との協力を深め、高度な救急医療の充実を図ります。

がん医療においては手術、放射線治療、化学療法に加え、がんゲノム医療を取り入れた手厚いがん医療体制を構築し、高齢化や治療・副作用の複雑化に対応す

べく、臨床腫瘍科を設置し、がん治療センターでの化学療法と副作用対策にも力を入れております。また地域がん診療連携拠点病院として、先進的な診断から治療、さらには心身の苦痛、心のケア、アピアランスケア、社会復帰など、患者さんとご家族の生活の質（QOL）の向上に積極的に取り組んでおります。

また不整脈や心筋梗塞の血管内治療、ロボット手術や内視鏡による低侵襲治療などを更に整備し、患者さんに優しい高度医療機能の拡充を進めております。

今後も、職員一同、患者さん一人ひとりに寄り添い、安心して治療を受けられるよう、誠心誠意努力して参ります。地域の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



東京医療センターだよりは
QRコードからもご覧になれます



新任の挨拶（常勤医師）

血液内科 清水 隆之



4月1日より、血液内科科長に着任しました清水隆之です。私は、1997年に慶應義塾大学を卒業後、慶應義塾大学病院での初期研修、関連病院での後期研修を経て、2001年に同大学の血液内科に入局しました。以降、23年間、同科で主に造血器腫瘍や深在性真菌症に対する臨床や研究、学生や若手医師の教育に携わってきました。血液内科の臨床は、白血病や悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器腫瘍の治療が中心となりますが、再生不良性貧血や溶血性貧血といった非腫瘍性疾患の診療も含まれます。特に造血器腫瘍に対する治療は多数の分子標的薬が導入され、その治療法は、日々進歩しています。新たに蓄積されるevidenceに基づき、これまで同様に、多数例の造血器腫瘍の治療に携わっていきたいと考えています。造血器腫瘍は、「治療が難しい」、「予後が悪い」といったイメージがありますが、適切な診断がなされ、適切な治療を行うことで、治療や長期生存が十分に可能です。数ある治療法の中から、一人一人の患者様にとって、より良いと考えられる治療を選択し、適切なタイミングで提供する体制を構築したいと思います。血液疾患の適切な治療を行うためには、当科医師のほか、看護師さん、薬剤師さんら多職種の専門性のあるスタッフの密接な連携が不可欠です。十分なコミュニケーションをとり、質の高いチーム医療を実践していきます。そして、患者さん、ご家族に「東京医療センターに来て良かった」と言って頂ける診療科でありたいと思っています。院内や地域の医療機関の皆様からのご紹介をお待ちしています。今後ともよろしくお願いします。

新臨床研究・治験推進室長 鈴木 勝也



この度、令和6年4月より室長（併任）を拝命しました鈴木勝也と申します。

臨床研究とは、「医療における疾病の予防方法、診断方法及び治療方法の改善、疾病原因及び病態の理解並びに患者の生活の質の向上を目的として実施される医学系研究であって、人を対象とするもの」と定義されています。臨床研究のうち、製造販売承認申請に必要な臨床試験の試験成績に関する資料の収集を目的とする試験は特に「治験（ちけん）」と呼ばれています。国立病院機構では「質の高い臨床研究の推進」を理念としており、当院でも、被験者の協力を得て多くの研究を行なっています。当室には、専任職員9名（治験主任薬剤師2名、臨床研究コーディネーター（看護師4名、臨床検査技師1名）、事務員2名）が在籍しており、研究責任医師、薬剤部等の関係各所と連携を密にして、臨床研究・治験が適正に実施できる体制の構築に向けて取り組んでいます。

当室では、今後も被験者の保護と法令の遵守を通じ、適正な臨床研究・治験を推進し、より良い高度医療の実現に向けて努めてまいります。臨床研究・治験に関するご相談や当室の業務内容についてのお問合せは、当院ホームページをご覧ください。

今後とも当室は質の高い臨床研究・治験の推進に努め、地域医療の発展に貢献してまいりますので、よろしくお願いいたします。

総合内科 福島 龍貴



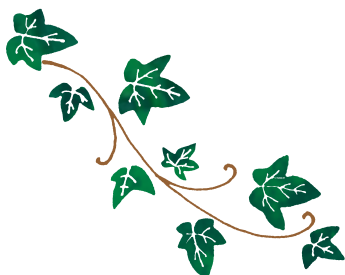
2024年4月より内科医長の職務を担うことになりました福島龍貴と申します。総合内科に所属し、主として急性期の内科診療に従事して参りました。近年は、都市部においても入院患者さんの高齢化が急速に進み、急性期の病気が治っても、その間に心身の機能が低下して元の生活に戻れなくなる方が増えています。その点を入院前あるいは入院早期より意識して、病気が治るだけでなく、できるだけ元の生活に戻っていただくことも重要な課題と考えて取り組んで参りたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

感染症内科 片山 充哉



感染症内科医長を拝命いたしました片山です。当院にも新型コロナウイルス感染症の流行をきっかけに感染症科が立ち上がりしました。感染症科の業務は、主に感染管理、抗菌薬適正使用プログラム、感染症コンサルトという大きく3つの業務で構成されています。感染管理という未

然に院内感染を防ぎ、院内感染が起きたときに広がりを最低限に抑えるという感染防御の業務に加え、抗菌薬適正使用という漫然とした広域抗菌薬使用による耐性菌の蔓延を防ぐ業務、感染症コンサルトという複数の診療科、微生物検査技師との連携により良い感染症診療を提供するコンサルト業務という3つです。患者さん一人一人を丁寧に診察させていただきますが、横断的に院内を見渡す機能を兼ねた診療科です。変化が多い中で持続可能性を求められる時代ですが、引き続き住民の方が安心して受診できるような病院を目指し働いていきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。



リハビリテーション科 武中 基泰



令和5年4月にリハビリテーション科に着任し、令和6年4月より同科科長を拝命いたしました、武中基泰と申します。リハビリでは訓練を行いながら時間をかけて改善を見据えていく場面も多いですが、東京医療センターは高度・急性期病院であり、めまぐるしく変化する病状に対し、臨機応変に対応していく各科の先生方を日々拝見しております。私も一人一人の患者様のお力になれるよう、各科の先生方に負けずに機敏に対応して参りますので、お気軽にご相談・ご依頼ください。よろしくお願い申し上げます。

総合内科 津山 頌章



2024年4月より総合内科に赴任いたしました、津山頌章(のぶあき)と申します。千葉県で総合内科、感染症内科医として勤務し、この度当院に赴任することになりました。特に感染症を専門にしております。地域の皆様のお役に立てるように診療して参ります。感染症に関することでお困りのことがございましたらお気軽にご相談いただければ幸いです。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

血液内科 川瀬 咲



2024年4月より東京医療センター血液内科に赴任いたしました、川瀬咲と申します。

2018年に鹿児島大学を卒業し、現在医師7年目になります。昨年度まで慶應義塾大学病院に勤務し、白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫などの血液疾患の抗がん剤治療に加えて、同種造血幹細胞移植やCAR-T細胞療法などの診療に携わって参りました。

東京医療センターは地域の中核病院であり、患者さんが高度で専門性の高い診療を提供するのはもちろんのこと、患者さん・ご家族に安心して治療を受けていただけるように尽力して参ります。どうぞ宜しくお願い致します。

消化器内科 脇坂 悠介



2024年4月1日より東京医療センター消化器内科に着任いたしました、医師11年目の脇坂悠介と申します。私は2014年に慶應義塾大学医学部を卒業し、川崎市立川崎病院での初期・後期研修を経て、2018年に慶應義塾大学医学部 内科学(消化器)教室に入局いたしました。大学病院では、潰瘍性大腸炎やクローン病といった炎症性腸疾患の臨床・基礎研究に従事しておりました。新しい環境にまだまだ慣れずご迷惑をおかけするかと存じますが、一日でも早く皆様のお力になれるよう精進いたします。何卒よろしくお願いいたします。

消化器内科 茅島 敦人

医師10年目の茅島敦人と申します。消化器内科でもとくに胆膵疾患の内視鏡治療を専門としてこれまで修練を積んで参りましたが、専門のみならず消化器分野について幅広く地域医療へ貢献して参ります。どうぞ宜しくお願いいたします。

産婦人科 栗原 みずき



2024年4月より産婦人科に赴任しました栗原みずきと申します。新潟大学を卒業後、沖縄県で初期/後期研修を行い、その後は静岡で勤務しておりました。産婦人科全般の診療に携わっておりますが、腹腔鏡手術や悪性腫瘍を中心に診療して参りました。今後、皆様のお力になれますよう日々精進したいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

小児科 鳥居 健一



2024年4月に小児科医員として着任しました、鳥居健一です。東京医療センターには初期研修などで4年間在籍しておりました。その後は小児神経を勉強し、久しぶりに駒沢の地に戻ってまいりました。けいれん、筋緊張低下、発達の遅れ、カフェオレ斑、重症心身障害、脳波の撮像や読影など対応致しますので、お気軽にご相談ください。てんかん症例の病診連携も考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

一般・消化器外科 平田 雄紀



本年4月より一般・消化器外科に赴任した平田雄紀です。食道癌・胃癌を専門としております。歴史ある東京医療センターで外科医として働けることを嬉しく思います。本年3月まで2年半程米国に留学し、主にロボット胃切除の有用性に関して研究しておりました。その経験を日々の臨床や研究に活かして参りたいと思います。全力で頑張りますので、ご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。



形成外科 渡部 紫秀



昨年度より形成外科で勤務しております、渡部紫秀（わたなべ しほ）と申します。慶應義塾大学関連施設での研修を終えて形成外科専門医を取得したあと、岡山大学形成再建外科で性別不合に対する身体的治療について学び、日本GI（性別不合）学会の認定医を取得しました。

当院でも性別適合手術を開始する予定です。並行して、一般形成外科領域や、各種再建外科領域についても研鑽を積み、一人でも多くの方が「より幸せに生きる」ために少しでもお手伝いをできるよう励んで参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

整形外科 西島 貴之



本年4月より整形外科に配属となりました西島貴之（にしじまたかゆき）と申します。慶應義塾大学医学部を卒業後、同大学の整形外科科学教室へ入局して関連施設にて修練を積み、整形外科専門医、並びに同大学院での学位を取得致しました。専門領域は肩から指先までの上肢を担当しておりますが、一般整形外科の診療に幅広く携わりたいと考えております。他科の先生方、各診療スタッフの方々におかれましては温かいご支援、ご指導を賜れば幸いです。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

救急科 帯川 史生



2024年4月より救急科の常勤となりました帯川と申します。私は初期研修後、成育医療研究センターにて小児科の後期研修を受け、同病院のPICUフェロー経験後、2020年当院救急科のレジデントとして入職致しました。これまでの経験を活かして乳児から成人まで幅広く対応し、

当院での救急集中治療に貢献していく所存です。ご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、何卒宜しくお願い申し上げます。

救急科 小林 祐介



2024年4月より救急科に赴任しました小林と申します。当院で初期臨床研修を行った後に救命救急センター・整形外科でそれぞれ専攻医として研鑽を積み、今年度より救命救急センターに戻るとなりました。救急一般診療および四肢外傷が専門となりますが、地域の救急医療に少しでも貢献できるよう精進して参ります。ご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

新任の挨拶（事務部長、薬剤部長）

事務部長 金森 勝徳



このたび、東京医療センター事務部長に就任しました金森勝徳と申します。国立病院機構での勤務は3年ぶりのことであり、多少の不安を感じておりますが、日々の職務に精励し、職責を果たせるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い致します。

事務職員の仕事は、現場で働く医療スタッフが最高のパフォーマンスを発揮できるよう側面からしっかりサポートをすることです。そのためには、事務職員それぞれが担当している仕事の専門性を高め、できることをスピーディかつ正確に行っていくことが必要です。事務部長として優秀な事務職員をたくさん育て、また自分自身も研鑽に努めてまいります。そして何よりも明るい職場にして、事務職員の皆さんが気持ちよく働けるようにしたいと考えています。

労働環境の向上はそのまま患者サービスの質的向上にも繋がり、ひいては患者のみなさんや地域のみなさんから愛される病院との評価に繋がります。東京医療センターは今後も地域の皆さまから愛され、信頼される病院を目指していきます。地域の関係者の皆さま、引き続きご指導賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

薬剤部長 軍司 剛宏



令和6年4月1日付けで薬剤部長を拝命しました軍司です。6年ぶり3度目の勤務となります。平成6年10月から12年半薬剤師として、平成29年4月から2年副薬剤部長として在籍しておりました。

薬剤師時代は7A・7B・8A・5Bなどの病棟を担当し、システム担当の際は4A・OP室、個人的には医療職（二）・事務部との関わりも深かったです。それ以上に旧知の医師・看護師などたくさん在籍していることも改めて分かり、本当に心強く感じております。

さて世間では病院薬剤師が不足していると言われております。現在私は国立病院機構関東信越グループの薬事専門職として人事等を併任しており、関東信越グループ32病院の薬剤師を充足するためいろいろな対策を講じております。幸いにして当薬剤部は、関東信越グループで一番薬剤師が多い病院であり、尚且つモチベーションの高い薬剤師が多く在籍しております。

そしてかつては院内調剤のみを行っていた昭和の薬剤師時代とは様変わりし、医師の処方支援や多岐に渡るチーム医療へ参画しております。各職種から薬剤師の必要性が認めていただいていることは嬉しい限りです。

いち薬剤部長としては微力ではありますが、特に患者へ「くすり」に関することは安全で安心できるように薬剤師から情報提供等を行い、多職種と連携し、さらに医療へ貢献していきたいと思えます。

今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

新任の挨拶（主任以上）

診療放射線技師長 加藤 芳人



令和6年4月1日付で高崎総合医療センターより配置換えで着任いたしました、加藤芳人と申します。NHO入職後の勤務先として、初めてお世話になることとなりました。

当院放射線科は多くのスタッフと放射線機器を有し、多岐にわたる依頼に対応しております。今後も、画像診断装置、放射線治療装置を駆使し、患者さんに低被ばくで有益な診断・治療に役立つ最良の技術を提供してゆく所存ですので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

照射主任 昆 貢広



4月1日より国立がんセンター中央病院中央病院から参りました昆貢広（こんみつひろ）と申します。これまで放射線治療に長く携わっており、東京医療センターでも放射線治療を担当しています。これまでの経験を活かして、安全で高精度な治療を患者様に提供したいと思います。よろしく願いいたします。

放射線科特殊撮影主任 原田 潤



4月1日付で国立国際医療研究センター病院より異動して参りました原田潤と申します。今まで在籍した施設はいずれも三次救急に指定された急性期医療の病院で、救急医療や災害医療に携わってきました。その中でも前施設では特にMRI検査を専門に行って参りました。東京医療センターでもMRI部門を担うこととなったため、これまでの経験を活かし、質の高い医療が提供できるよう若いスタッフとともに業務に取り組んで参ります。今後ともよろしくお願い致します。

特殊撮影主任 安藤 正樹



4月1日で村山医療センターより着任しました安藤正樹と申します。現在はCT検査業務を担当しております。全施設とは施設の規模や検査内容など異なることが多くあり、焦りや戸惑いが大きくありますが、若い技師の優秀な働きぶりに刺激をもらいながら勤務しています。様々な病状に対しての治療の一助となる画像の提供、ならびに検査における医療安全の提供を放射線科医、技師また他部門との連携を深めつつ、尽力していきたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。

副臨床検査技師長 宮木 聡恵



本年4月1日付けで宇都宮病院より副臨床検査技師長として着任致しました、宮木聡恵と申します。宇都宮病院の前に勤めていた施設は、国立がん研究センター中央病院に長年勤めていました。がん専門病院としての経験が長かった為、高度急性期病院で、自身が必要とされる経験や知識は何かを考え、一日でも早く戦力になりたいと考えております。検査科スタッフと力を合わせて、患者様の治療に貢献できるように努めて参りますので、ご指導ご鞭撻のほど、何卒、よろしくお願い致します。

検査科主任 久保順一



この度、令和6年4月1日付けで採血室主任として赴任しました臨床検査科の久保順一と申します。今回、本紙面をお借りして、皆さまにご挨拶をさせていただきます。私は今回で7回目の異動、7施設目となります。当院では採血室に配属され約1ヶ月がたちます。今までも採血には携わって参りましたが、前施設、前々施設でも採血室勤務でしたので今までに培ってきた知識、技術を基に当院でも患者さんに不安等を与えないよう精進していきたいと思えます。

検査科主任 原田 邦彦



4/1付けで災害医療センターより配置換えで着任いたしました原田邦彦と申します。病理検査を担当しております。以前勤めていた施設の病理検査室は私を含め3名であり、検体数も当院の1/3ほどでした。当院は検体数もスタッフも多いため、不安もありますが、今まで培ってきたことを当院でも発揮できるよう精進していく所存です。まずは、1日でも早く当院のルールを覚え戦力となれるように努めてまいります。今後ともよろしくお願い致します。

理学療法士長 丸山 昭彦



令和6年4月よりリハビリテーション科、理学療法士長として独立行政法人国立病院機構東京病院より赴任いたしました丸山昭彦です。当院のリハビリテーション科は超急性期の患者さま、並びに維持期の患者さま、脳血管疾患や循環器疾患、呼吸器疾患、がん、周術期の患者さまなど幅広い分野の専門的リハビリテーションを行っています。これからも地域の先生方やスタッフの方々、関連部署の方々にお力をお借りしながらより良いリハビリテーションを提供できるよう努力していく所存ですので宜しく願い致します。

副作業療法士長 大島 貴彦



4月1日より神奈川県病院より副作業療法士長として着任いたしました大島貴彦と申します。

2010年から2015年までの6年間、一般職として当院で勤務しておりました。8年振りの勤務で戸惑う部分も多いですが、地域の皆様や病院のお役に立てるように日々の業務に取り組んでいきたいと思ひます。どうぞ宜しくお願い致します。

薬剤部業務主任 上田 真也



2024年4月1日付で着任しました上田真也と申します。静岡医療センター、茨城東病院を経て3施設目となります。今までの小・中規模病院とは異なり大規模病院の勤務となるため、より一層引き締めて業務に務めていきたいと思ひます。

皆様の知るところだと存じますが、医薬品供給の情勢が悪く、出荷調整・停止が増えています。業務主任として薬の安定供給に尽力したいと考えています。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

副看護部長 高村 里実



4月1日付けで着任いたしました高村里実と申します。

出身は茨城県で、都内での勤務は3年ぶりとなります。

少子・超高齢化の進展により、医療・看護を取り巻く環境は大きく変化し、私達、看護職にもそれに合わせた柔軟な変化が求められています。しかしながら安全で質の高い医療・看護を提供するという根本は変わらず、それが叶うよう頑張っていきたいと思ひます。まだまだ力不足ではありますが、どうぞよろしくお願い致します。

6A 清水 敦子



4月より横浜医療センターより異動になりました清水敦子です。

東京医療センターでの新たな職務に就くことを大変光栄に思ひます。

わたしが勤務する6A病棟は一般外科、乳腺外科、呼吸器外科が主な診療科です。

6A病棟の窓からは晴れていると富士山、眼下には駒沢公園が見え、この景色は東京医療センターで働いていることを実感させます。

活気と優しさのあふれるスタッフに恵まれ感謝しつつ職務に就いております。

今後はチームと協力し、最善の医療を提供できるよう努めて参ります。どうぞよろしくお願い致します。

運動療法主任 嶋 悠也



2024年4月1日付けで千葉東病院から参りました、運動療法主任の嶋悠也と申します。千葉東病院では神経難病や重症心身障害児者のリハビリテーションを中心に臨床業務をしておりました。東京医療センターとは対象とする疾患や入退院の期間などが全く違うため、他施設での経験を活かし、より早く業務になれるよう努力して参ります。また微力ではありますが、リハビリテーション科の一員として当院に貢献できるよう努めて参りたいと思ひます。

製剤主任 多和 有生



4月1日付で西新潟中央病院より参りました製剤主任の多和有生（たわゆうせい）と申します。2年ぶりの急性期病院であり、以前より大きな施設への配属となり今まで以上に身が引き締まる思ひです。東京医療センターでは、様々な疾患や専門的な治療にかかわることで私自身も成長し、患者様により良い医療を提供できるように努めてまいります。不慣れなところもあり、ご迷惑をおかけする事があるかと思ひますが、何卒宜しくお願い致します。

5B 村松 亜紀



5B病棟の村松亜起と申します。3月までは静岡てんかん・神経医療センターで看護師長をしておりました。まだ、東京の環境には慣れませんが、新生児や小児の子供達に日々癒やされながら管理業務を行っております。5B病棟は幅広い年齢層の患者様が入院されています。ここの病院に入院して良かったと思ひていただけるよう、温かい看護を提供できるよう取り組んでいきたいと思ひます。

7A 原田 直子



災害医療センターより7A病棟に師長として昇任でまいりました、原田直子と申します。

何もわからない状態で、皆様に多々ご迷惑をおかけすることがあると思ひますが、一日も早く病院や業務になれていくよう努力してまいりたいと思ひますので、ご指導よろしくお願い致します。

外来通院治療センター看護師長 関根 典子



令和6年4月より外来通院治療センター看護師長になりました関根です。国立国際医療研究センター国府台病院より転任で参りました。看護師歴は長いので、これまでの経験を活かし、さらに新たに学んでいきたいと思ひます。このたび東京医療センターでの勤務の機会を頂いたので、一期一会を大切に、微力ながら力を尽くせたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

庶務班長 出井 洋平



4月1日付で千葉東病院より昇任で庶務班長として着任いたしました出井と申します。東京医療センターは、新採用の平成19年10月～平成23年3月まで給与係で勤務をしていました思い出深い病院です。久しぶりに勤務してみると、あらためて病院の規模、職員数の多さに圧倒され、慣れない業務に四苦八苦する毎日です。

当院が職員にとって働きやすい環境に、また患者さんからも安心、信頼される病院となれるよう取り組んでいく所存ですのでよろしくお願いいたします。

専門職 出雲 はる奈

4月1日付で専門職として着任しました出雲と申します。約10年ぶりの国立病院機構病院での勤務となります。これまで、主に、厚生労働省において、医療提供体制の確保、医療従事者の養成や確保、医療機関の運営・経営に関する制度などに携わってきました。この度、改めて、医療提供の最前線である病院に勤務し、患者・家族の皆様等のお話を拝聴することなどを通じ、日々、現場を肌で感じながら、病院の運営に関与できることへの感謝を大切に取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。

経営企画係長 鈴木 宝



4月1日付で経営企画係長として着任いたしました、鈴木 宝(すずき たから)と申します。前施設はJCHO(地域医療機能推進機構)で関東グループの人事を担当しておりました。国立病院機構での勤務は初めてとなりますが、最大級の規模を誇る東京医療センターに配属され、身の引き締まる思いです。1日でも早く業務に慣れ、日々研鑽しながら業務に取り組んで参りますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

庶務係長 川俣 佳広



4月1日より庶務係長として着任しました川俣佳広と申します。国立病院機構施設の勤務は3年ぶりであり、未経験の管理課の業務に戸惑いながら日々過ごしております。不慣れなことも多く職員の皆様にはご迷惑おかけしますが、一日も早く業務に慣れ、東京医療センターの力になれるよう務めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

研修医の抱負

代表 山田 一真



はじめまして。4月より入職した山田一真と申します。

恵まれた環境の東京医療センターで医師としての第一歩を踏み出せることを心より嬉しく思っております。

私は、小学校の時に三軒茶屋から池尻大橋に引っ越し、幼少期は当院近くのスポーツセンターのプールに通い、駒沢公園でも遊んでいました。

産まれ育った場所で、患者さんや地域、そして病院のために、1日でも早くお力になれるように努力を積み重ねてまいります。

どうぞよろしくお願いいたします。

副代表 小鳥居 玲央



この度東京医療センターで働くこととなりました、小鳥居玲央と申します。

早いもので研修が始まり約1ヶ月が経ちました。知識や経験の浅い私たちは、白衣を着て病棟に立っているだけで「先生」と呼ばれ、正直毎日不安や違和感でいっぱいです。

しかし、丁寧に指導してくださる先生方、辛い時や楽しい時をともに過ごす24名の同期がいるこの病院は、私が立派な医師になることのできる環境だと確信しています。

これから多くのことを経験・勉強し、広い視野と心を持つ医師を目指して精進して参ります。



新人看護師の紹介と新人看護師の抱負

教育担当看護師長 近野 美穂



新採用者看護部合同オリエンテーション「医療安全」講義風景



看護師長による各部署の紹介

「2024年度入職しました、新人62名です。どうぞよろしくお願いいたします。」

今春、看護部には、全国各地から62名の新人看護師・助産師を迎えました。夢と希望に満ち溢れ、それぞれが部署に配属され、看護師・助産師としてのスタートラインを切りました。専門職業人としての基本的な態度を身に付け、患者さんやご家族へ安全で安心した看護が提供できるように、学生時代に習得した知識や技術を土台とし、入職後から集合研修・職場内での研修を行っています。4月下旬頃よりは、先輩看護師とペアとなって患者さんを受け持つようになり、指導を受けながらケアに取り組んでいます。少しずつ職場の環境にも慣れ、入職当初の緊張した面持ちも和らぎ、笑顔で患者さんやご家族と関わるできるようになってきています。

東京医療センターの看護部の理念は、「心の豊かさを重視した質の高い看護を提供する」です。入院、治療を余儀なくされた患者さんやご家族の思いに耳を傾け、その意思を尊重した看護を提供し、安心と信頼に応えられる看護師になれるように教育担当者として支援していきます。先輩看護師も新人看護師の良い手本となるように、お互い看護観を深め合い、成長できるように切磋琢磨しています。新人看護師はまだまだ未熟なところもありますが、これからの成長を見守っていただけますと幸いです。

どうぞよろしくお願いいたします。



4階B病棟 神永 龍也

私が配属された4B病棟は心疾患・不整脈センターとなっており、併設されているCCU/ICUにて勤務しています。重症度の高い患者さんや手術後で全身状態の管理を必要とする患者さんが入院されているため、より高度な知識・技術が求められます。

これから先、専門職として働くなかで患者さんやそのご家族に最新で最善の看護を提供することができるよう日々精進し、いつか看護の道に進んでよかったと自分自身を誇れるような看護師を目指していきたいです。



9階B病棟 阿部 真由子

私は、実習で患者さんが治療を終えて笑顔で退院していく姿がとても印象に残っており、患者さんを回復に導くケアをしていきたいと思うようになりました。看護部の理念である「心の豊かさを重視した質の高い看護」として、まずは安全で正確な看護技術を習得し、患者さんから信頼される看護師になれるように精一杯頑張りたいと思います。さらに、患者さんの生活背景や価値観を尊重し、患者さんに寄り添える看護師を目指していきたいです。

みんなが知りたい病気シリーズ ～早期乳がんを切らずに治す～

副院長／がん治療センター長 木下 貴之

はじめに

乳がん検診受診率の向上と画像診断法の進歩に伴い、早期乳がんの発見数が急激に増加してきています。200年以上前の江戸時代に華岡青洲先生が（図1）、世界で初めて全身麻酔下で乳がん摘出手術を行いました。今でもこの時と同じような手術器具を用い、切ることによって治療が行われています。より小さな乳房のしこりで発見されることが増えた21世紀には乳房を切らずに、短時間で身体に影響が少ない治療法開発を実現することを目的として、研究を開始いたしました。



図1. 華岡青洲肖像（和歌山市立博物館）

華岡青洲の医塾春林軒（しゅんりんけん）の門人岩城猷助に与えられた青洲の肖像画。肖像画の上の部分に青洲が医者としての心得のひとつである「起死回生の術」などの文言を書いて門人に手渡した

ラジオ波焼灼療法の原理

AMラジオの周波数に近い医療用高周波電流をがん組織の中に通電させることによって、組織を焼灼します。この治療は肝臓がんなどの治療では既に承認済みで、多くの患者さんたちを治している医療技術です（図2）。

ラジオ波焼灼療法（RFA）の効果と適応

初期の研究で、乳房では1回の焼灼で3cm範囲の組織を死滅させることが明らかになりました。早期乳がん（大きさ2cm以下）で単発かつ限局性していることが、治療の適応条件となります。この治療法は切除をしないため、傷が針穴のみで乳房の変形も最小限で留まり、患者さんの身体に優しく、より高い満足感と安心感をもたらすことが期待されます。

予測される副作用と不利益

ラジオ波焼灼療法は熱でがん細胞を死滅させるため、皮膚の熱傷や治療した部分に固いしこりが残る可

能性があります。また、がんの焼き残しが無いか治療後も経過をしっかりとみることが大切です。

これまでの臨床試験の概要

今日の標準的外科治療である乳房温存療法では、放射線治療を組み合わせても術後5年間で数%程度の頻度で同側乳房内に再発することが分かっています。私たちが先進医療Bで実施した研究では、RFAが乳房温存療法に劣らない治療効果、安全性と患者さんへより高い整容性と満足感が提供できるかどうかを確認することを目的としました。この研究は372人の乳がん患者さんが参加され、5年間の経過観察が実施されました。

薬事承認から保険収載

先進医療Bで実施したラジオ波焼灼療法の試験結果の高い有効性と信頼性が評価されて、2023年7月に薬事承認、2023年12月に保険収載されました。世界ではじめて切らない乳がん治療が日本で実用化したことになります。

日本乳癌学会ではラジオ波焼灼療法が適切な患者さんに正しい方法で提供されるように適正使用指針を策定し、HPで公開しておりますので（図2）、治療を希望される際には必ずお目通しください。



図1. 超音波ガイド下に穿刺した電極針から通電して腫瘍を凝固壊死に至らせませす

● 乳癌ラジオ波焼灼療法適正使用指針（日本乳癌学会作成）

患者選択基準

適格基準

- 針生検で組織学的に通常型の原発性乳管癌であることが証明されていること。
- 腫瘍の大きさが、造影MRI検査、超音波検査を含む術前画像検査すべてにおいて長径1.5cm以下の単発限局性病変であること。
- 癌の皮膚浸潤や皮膚所見（Delle）が認められないこと。
- 今回の乳癌に対する前治療（化学療法・ホルモン療法・放射線治療など）の既往がないこと。
- 年齢が20歳以上の女性であること。
- 術後放射線治療が実施可能なこと。
- 手術、全身麻酔に耐えうる臓器機能を有すること。
- 術前診断にて腋窩リンパ節転移がないこと。

適応除外基準

- 妊娠中、もしくは妊娠している可能性がある症例。
- 心臓ペースメーカーまたは埋込み型除細動器を留置している症例。
- 局所の活動性の炎症や感染を合併している症例。
- 重篤な心疾患、脳疾患を有している症例。
- 人工骨等のインプラントにより、対極板を貼付できず、RFAが適切でない症例。
- 抗血小板薬、抗凝固薬等、止血困難が予想される症例。
- 画像上広範囲の乳房内病変の存在や多発病変の存在が疑われる症例。
- マンモグラフィ（MMG）で広範な石灰化を認める症例。
- 温存乳房内再発を含む再発性の再発乳癌症例。
- 他臓器転移を認める症例。

図2. 乳癌ラジオ波焼灼療法適正使用指針

患者図書室からのお知らせ

～新着図書のご案内～

患者さん向けの本をご用意しています

患者図書室でお選びになった本は、がん治療センター内（病棟 3 階 B フロア）でしたら、ご自由にお持ちいただけます。

読み終わりました本は、返却 BOX（図書室・受付前待合に設置）へお願いします。

入院中の方へは貸出も行っております。みなさま、是非ご利用ください。

▼2024 年度の新着図書

※本は分類順に並んでおり、背のラベルから探すことができます→

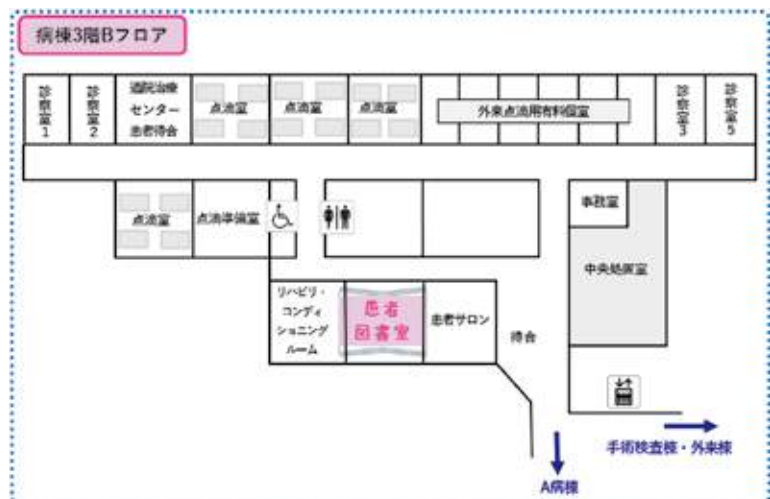
	『マルファン症候群ガイドブック』第3版 マルファンネットワーク ジャパン 2023 年 Fe:がん:10905		『がん経験者のリアルな生活』 翔泳社 2023 年 Fe:がん:10908
指定難病マルファン症候群の患者会が医師の監修の元に作成、初めて知る方から、教育・医療関係の方にも役に立つような構成で改訂を重ねた第3版。		がん経験者の方などにインタビューして情報を発信する YouTube 番組『がんノート』の活動を通して聞いてきた、がん経験者のリアルな生活を 1 冊に。	

Fe
がん
10905

利用案内

- ・開室日：月～金曜日（平日）
- ・開室時間：9 時～15 時
- ・蔵書数：約 1,200 冊
- ・利用者用パソコンは、情報検索や蔵書の確認、図書室内の DVD 視聴等にご利用いただけます。
- ・ご利用にあたってはマスク着用・手指衛生をお願いしております。

患者図書室ホームページ



図書室には司書がおりますので、資料・調べ方などお気軽にご相談ください。



地域医療連携室からのお知らせ

地域医療連携係長 清水 裕子

平素より東京医療センターの診療に対し、ご支援並びにご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

当院は、地域医療支援病院として紹介患者さんに対する医療の提供や、かかりつけ医への患者さんの逆紹介、医療機器の共同利用などを行っています。高度・急性期を担う総合病院・地域がん診療連携拠点病院として、当院の特徴を活かした診療をチームで行えることが当院の強みと思っています。地域医療連携室は、近隣の病院や診療所などからご紹介いただいた患者さんが安心して医療が受けられるために重要な役割を担っております。地域の先生方にもご協力いただき連携がスムーズに行えるよう体制を整えてまいります。今回は、当院で行っている地域医療連携関連のサービスを2つご紹介します。

ひとつめは、「かかりつけ医ご案内サービス」です。平日の9時から12時に外来棟1階初診受付の横のスペースで行っております。当院の診療が終了し、かかりつけ医を探したい患者さまや、症

状に見合った受診医療機関を探している患者さまに、ご希望に合った近隣の医療機関をご案内しております。当院の診療科の医師から適切な紹介先を探してほしいという依頼も受けております。窓口に直接お越しいただければ、ご紹介させていただきます。

ふたつめは、地域の医療機関からの紹介状をお持ちの患者さまが、当院の外来予約を取得する場合にご案内していただく初診予約カードの提供です。当院では、患者さん自身のご都合のよいタイミングで予約センターにご連絡いただき予約をとっていただけるよう、初診予約カードを作成しています。地域医療機関の先生方でご希望があれば、ご提供させていただいております。お気軽にご連絡いただければ幸いです。

今後も地域の先生方のご意見を伺いながら、東京医療センターとしての役割を果たしていきたいと思っております。宜しくお願いいたします。

「かかりつけ医」を知りましょう



こんな時、お気軽にご利用ください。

- ・かかりつけ医を見つけたい
- ・近所の医療機関を知りたい

症状の安定した患者さんには、地域の「かかりつけ医」への逆紹介を進めております。先生からの指示を基に患者さんと相談しながら、ご近所のかかりつけ医をご紹介、ご案内いたします。

「かかりつけ医ご案内サービス」をご利用ください。

かかりつけ医ご案内サービス (9:00~12:00)
ご自宅等のお近くの医療機関をご案内致します。



このサインが目印

外来棟1F

国立病院機構 東京医療センター
(地域がん診療連携拠点病院)

初診予約のご案内

当院の各診療科宛ての紹介状をお持ちの患者さんは、予約センターにて初診の予約取得が出来ます。

予約センター直通(受付時間 平日 8:30~16:00)

 **03-6859-4895**

TEL : 03-6859-4895

紹介状をお手元にご用意の上、お電話ください。
月曜日や午前中はお電話が集中し、繋がりにくいことがございます。

国立病院機構東京医療センター
(地域がん診療連携拠点病院)

〒152-8902
東京都目黒区東が丘2-5-1
最寄駅：東急田園都市線 駒沢大学駅



登録医紹介



尾山台 健 内科クリニック

院長あいさつ

健康に関するどんな些細なことでも気軽に相談できる身近なかかりつけ医を目指して、2010年に尾山台で内科クリニックを開業して以来、地域の皆様から信頼されるクリニックになるよう努めてまいりました。一般診療としては総合内科専門医として最新の医療を提供することを心掛け、高血圧症、糖尿病をはじめとした生活習慣病の治療や各種健康診断・ドッグを通じて病気の早期発見・治療および予防に力を入れております。また消化器病および肝臓専門医として胃・大腸内視鏡検査、腹部超音波検査などを積極的に行っています。今後とも引き続き、よろしくお願いいたします。



院長
深井 健一



診療科・医院案内

一般内科 / [消化器・内視鏡・肝臓・糖尿病・漢方] 内科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	●	●	●	—	●	●	—
15:00~18:30	●	●	●	—	●	※	—

※土曜の午後のみ17:00まで 最終受付は診察終了時間の15分前まで
休診日：木曜日、日曜日、祝日

〒158-0082
東京都世田谷区等々力4-9-1 ☎03-6809-8171
<https://ken-cli.jp/>



みやぎしレディースクリニック

院長あいさつ

2017年3月より都立大学で「みやぎしレディースクリニック」を開院いたしております。お蔭様で思春期からご高齢の方々まで幅広いご年齢の方がご来院いただけるようになりましたが、まだ産婦人科は受診するのに勇気のいる科です。今までの臨床経験を活かし、多くの皆さまがお気軽にご相談して下さいますよう、ホームドクターとして寄り添い、共に歩んでいければ幸いです。いつまでも健やかで素敵な女性としてお過ごしになられるようお手伝い致します。



院長
宮岸 玲子



診療科・医院案内

一般婦人科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~13:00	●	●	—	●	●	△	—
15:00~18:00	●	☆	—	●	●	—	—

☆火曜19:00まで △土曜14:00まで
休診日：水曜・日曜・祝日 ※受付は診察終了30分前まで
〒152-0023
東京都目黒区八雲1-3-6 K-crossビル301
☎03-5731-8866
<https://miyagishi-lc.com/>

